

第7回複素解析学II演習 (2011年5月31日実施)

担当教員 平地健吾/ TA 久本智之 松本佳彦

以下の問を次回の演習の時間の『はじめ』にレポートとして提出すること。

[R9] 複素領域 Ω 上の連続関数 $u(z)$ が平均値の性質「 $f(z_0) = \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} f(z_0 + re^{i\theta})d\theta$ for all $[\Delta(z_0, r)] \subset \Omega$ 」を満たせば、 u は調和関数であることを示せ。

[R10] (調和関数の鏡像の原理) Ω を実軸に対して対称な領域とする。 $\Omega_{\pm} = \{z \in \Omega : \pm \text{Im } z > 0\}$ とおく。 u を $\{z \in \Omega : \text{Im } z \geq 0\}$ 上で定義された実数値連続関数で、 Ω_+ 上で調和、 $\Omega \cap \mathbb{R}$ 上で0になる関数とする。 u は Ω 上の調和関数に拡張できることを示せ。(ヒント: Ω_- 上では $-u(\bar{z})$ とおく.)

以下は教室発表用の問題です。

[38] 次の各領域における Green 関数を求めよ：

$$\Omega_1 = \{z \in \mathbb{C} : |z| < 1, \text{Im } z > 0\},$$

$$\Omega_2 = \{z \in \mathbb{C} : |z| < 1, \text{Re } z > 0, \text{Im } z > 0\}.$$

[39] Ω を実解析的な境界 $\partial\Omega$ をもつ有界領域とする。 Ω の Green 関数 $g(z, w)$ は z の関数として $\partial\Omega$ の近傍の調和関数に拡張できることを示せ。(ヒント [R10])

[40] $f(z)$ は $\text{Re } z > 0$ で正則で、 $\text{Re } f(z) \geq 0$ とする。このとき次のことが成り立つことを示せ。

(i) 定数 $c \geq 0$ があって $\text{Re } f(z) \geq cx$ ($z = x + iy$).

(ii) $0 < \alpha < \pi/2$ を満たす任意の α に対して、 $|\arg z| \leq \alpha$ で一様に $f(z)/z \rightarrow c$.

[41] (Hadamard の 3 円定理) $0 < r_1 < r_2$ とする。 $r_1 \leq |z| \leq r_2$ 上の正則関数 f に対し、 $M(r) := \max_{|z|=r} |f(z)|$ ($r_1 \leq r \leq r_2$) とおく。このとき、実数 α に対して $|z|^\alpha f(z)$ が劣調和関数であることを用いて、 $\log M(r)$ が $\log r$ の下に凸な関数であること、即ち $r_1 \leq r \leq r_2$ に対して

$$\begin{aligned} \log M(r) &\leq \frac{\log r_2 - \log r}{\log r_2 - \log r_1} \log M(r_1) + \frac{\log r - \log r_1}{\log r_2 - \log r_1} \log M(r_2) \\ (\iff M(r) &\leq M(r_1)^{\log(r_2/r)/\log(r_2/r_1)} M(r_2)^{\log(r/r_1)/\log(r_2/r_1)}) \end{aligned}$$

が成立することを示せ。

[42] $f(z)$ は $r < |z| < 1$ で正則、非零、 $r \leq |z| \leq 1$ で連続で $|f(e^{i\theta})| = M > 0$, $|f(re^{i\theta})| = m$, ($0 \leq \theta \leq 2\pi$) とする。 $f(z)$ を決定し、 M, m, r の間の関係を求めよ。

[43] D を有界でない複素領域、 $f(z)$ は D で正則かつ有界とする。任意の $\zeta \in \partial D \subset \mathbb{C}$ において $\overline{\lim}_{z \rightarrow \zeta} |f(z)| \leq M$ ならば、 D 内で $|f(z)| \leq M$ であることを証明せよ。